



サマースクール

みなさま、こんにちは！もうすぐゴールデンウィークです！
今回は「こどもの日」について、その由来や、世界ではどうなのかを、少し調べてみました。



こどもの日は、1948年に制定された祝日で、「こどもの人格を重んじ、幸福をはかるとともに、親に感謝する日（祝日法2条）」とされています。

もともと奈良時代までさかのぼる「端午の節句」は、中国から伝来した風習の五節句のひとつで、江戸時代には男子の誕生と成長を祝う行事として発展していきました。五節句とは、年に5回ある季節の変わり目で、この節句には邪気が集まりやすいと考えられていたため、神様にお供え物などをあげ、無病息災を願っていたそうです。ちなみに五節句とは、1月1日（元旦）、3月3日（上巳）、5月5日（端午）、7月7日（七夕）、9月9日（重陽）です。端午の節句が「男の子のお祭り」になった経緯としては、江戸時代には端午に病気や災いを払うとされる「菖蒲（しょうぶ）」を飾るしきたりがあり、そこから同音である、武勇を重んじる「尚武（しょうぶ）」に転じたこと、また菖蒲の葉の形が剣に似ていることなどから、定着していったそうです。

そして太平洋戦争後、新たに祝日を制定する際、「国民感情につながった文化的な日を祝日にすべき」という意見が出て、いくつかの候補日のうち、もともとある祝祭感や、気候の良い時期であることが功を奏して、5月5日が選ばれたようです。

一方、国連によって定められた「世界子どもの日」は、11月20日です。世界の子供たちの相互理解と福祉の向上を目的として、1954年に制定されました。

この先、すべての子供たちが心身ともに健やかに成長し、安心して「子供時代」を過ごすことができるよう、環境を整えていくことが、我々大人に課された使命ですね。



さて、本日はサマースクールについて取り上げてみたいと思います。2020年以降、コロナ禍により世界的に人流がストップしてしまいましたが、徐々に渡航条件が緩和し始めています。国によっては、特段の制限なく入国できる場所もあります。「本場で英語を学んでみたい」、「世界中から集まる同年代の若者と仲良くなりたい」、などなど意欲溢れる若者にとって、サマースクールはきっと良い経験になるでしょう。

サマースクールとは？

サマースクールとは、海外にある語学学校やボーディングスクールが実施している夏休みのプログラムです。世界中から集まる若者たちと一緒に、授業やアクティビティに参加します。通常7月～8月頃に行われ、期間は1週間～1か月程度です。プログラム内容は主に以下のタイプに分けられます。

語学+アクティビティ

もっとも一般的なタイプで、午前に語学のレッスンを受けて、午後にアクティビティ（ゲームや市内観光など）を行うパターンがほとんどです。

語学学習だけでなく、現地の観光もでき、初めてサマースクールに参加する人にお勧めです。

語学中心

アクティビティを行わず、終日語学のレッスンを受けるパターンです。レッスン方法も様々なアプローチがあり、実践的な外国語を学ぶことができます。

短期集中で語学力を上げたいという方にお勧めです。



語学 + α

語学だけでなく、+αの経験をしたい方にお勧めです。

例えば、スポーツならサッカーやテニス、ゴルフ、乗馬など。

その他、演劇やダンス、アートなどを学べるカリキュラムもあります。

現地の本格的なコーチングを受けてみたい人にはお勧めです。

語学 + 他教科授業

語学の勉強だけではなく、歴史や数学、理科、文学などといった、現地校で行われる通常授業を体験するものです。

一方的に講義を受けるだけではなく、ディベートなど個人の意見を求められる機会もあり、日本とは異なる学校生活を体験することができます。

いずれは本格的な留学をしてみたい、と思っている方には良い機会です。

😊 メリット

1. 生きた語学が身につく

授業中はもちろん、24時間、英語を使う環境に置かれます。様々な国から来る仲間との共通言語も英語になるため、必然的に英語に慣れ親しむことができます。

2. 自立心・協調性が養われる

ホームステイや寮生活では、最低限、身の回りのことは自分自身で行わなければいけません。新たな環境で言語も文化も異なる人たちと交流するため、自分の力で対応する必要にせまられます。

またアクティビティなどの活動を通じて、国籍が違ってもしっかり協力しあう気持ちが生れます。

3. 世界各国から参加する同世代と知り合える

世界各地からやってくる同世代と知り合うこと自体が、日常生活ではなかなかできない経験です。言語や文化が異なっても、同世代ということで、思わぬ共通点や趣味から、親しくなる可能性があります。

4. 家族や日本について見直すきっかけになる

海外生活では、多様性や価値観の違いを学び、国際感覚が養われ、改めて家族や母国について考えるきっかけになります。慣れない環境のもと、何事も自分で解決しなければならぬ状況では、家族の大切さを実感するでしょう。また、様々な国籍出身の先生や参加者と交流するこ

とで、これまでとは異なる価値観を知り、日本に対しても客観的に捉えられるようになると思います。

😞 デメリット

1. 英語を話す機会が少ない可能性がある

サマースクールでは、個々に指導する機会は少なく、学校規模によってはクラスサイズが大きい場合もあります。また消極的だったり、大勢の前で話すことに慣れていないと、自己主張の強い他国の生徒に圧倒されたり、発言の機会が限られてしまい、悔しい思いをすることがあります。

2. 費用が高い

行先やプログラムによりますが、基本的に個人で参加するため、費用が高くなる傾向にあります。サマープログラム料金には、通常、授業料、アクティビティ費用以外に、滞在費・食費は含まれていますが、渡航費用及びサマースクール開催場所までの交通費などは、別途発生します。

参加条件

年齢

小学校高学年から高校生くらいまでを対象とするプログラムが多いです。

英語力

プログラム内容にもよりますが、英語レベルは特に問わないコースも沢山あります。

滞在先

寮

寮制の学校（ボーディングスクール）や大学の寮に滞在します。世界中から集まる同年代の若者と寝食を共にしながら、勉強やアクティビティに参加します。夕食後にもアクティビティがありますので、より深い友人関係が築けるでしょう。

基本的に校舎、食堂、寮は同じ敷地内にあり、スタッフも24時間滞在しているため、初めての方でも安心です。

ホームステイ

一般家庭に滞在し、食事や団らんを通して現地の日常生活を体験できます。また休日は、一緒にお出かけしたり、スーパーの買い出しなどに同行することもあるかもしれません。ホストファミリーは、年齢、出自、家族構成も様々です。その国の実情を肌で知る貴重な体験にもなるでしょう。

